

公務員

Ⅲ. 1. 公務員とは

公務員とは、国あるいは地方公共団体などの機関に勤務し、国民全体に奉仕し、国または地方公共団体から給与を支給されている職員のこと、その意味で一般企業の職員とは基本的な相違点を持っている。公務員は国家公務員と地方公務員に大別される。

(1) 国家公務員・・・国の各機関で働く職員

国家公務員は、一般職、専門職、特別職に分けられる。ここでは主に一般職について述べる。

【国家公務員一般職の仕事内容】

事務	主な採用先は、本省及び各府省の地方出先機関。庶務、経理のデスクワークが中心だが、採用先の機関により、その内容は変わる。採用先は財務局、検察庁、地方整備局、農政局など。
技術	<ul style="list-style-type: none"> ・地方運輸局などにおける自動車の検査、整備事業の発達、改善などの技術的業務や、道路、河川、空港、港湾、公園などの調査・計画・施工・管理等の技術的業務など。 ・防衛省の採用予定機関（陸海空自衛隊、技術研究本部、情報本部など）における電気機器、機械整備、調達補給、自衛隊施設等に必要設計・検査・監督などの技術的業務など。

『平成30年度版公務員試験ガイドブック』（壺溪塾公務員科編）より

専門職は、税務職、海上保安庁、入国警備官、刑務官、皇宮護衛官、気象大学校、航空保安大学校がある。特別職は、裁判所一般、自衛隊、国会図書館、衆議院・参議院事務や衛視がある。

〈試験内容（国家一般職）〉

試験	試験科目	解答題数 解答時間	内容
第1次試験	基礎能力試験 (多肢選択式)	40 題 90 分	公務員として必要な基礎的な能力(知識及び知能)についての筆記試験 知能分野 20 題 …文章理解⑦、課題処理⑦、数的処理④、資料解釈② 知識分野 20 題 …自然科学⑤、人文科学⑨、社会科学⑥
	適性試験 (多肢選択式)	120 題 15 分	速く正確に事務処理を行う能力についての筆記試験置換・照合・計算・分類などの比較的簡単な問題を時間内に番号順にできるだけ多く解答するスピード検査
	専門試験 (多肢選択式)	40 題 100 分	各試験の区分に応じて必要な専門的知識などについての筆記試験 (専門職のみ、後述)
	作文試験	600 字 50 分	文章による表現力、課題に対する理解力などについての筆記試験
第2次試験	人物試験		人柄、对人的能力などについての個別面接

(2) 地方公務員・・・地方公共団体（都道府県・市町村）の各機関で働く職員

地方公務員は、地方公共団体によって募集される職種が異なる。ここでは主な職種について述べる。

【都道府県・市町村職員の仕事内容】

一般事務	熊本県では知事部局や教育委員会等（それぞれの出先機関を含む）、熊本市では市長事務局や行政委員会事務局、議会事務局、水道局、交通局、消防局等で庶務、経理等を行う。
学校事務	県立学校、または市町村立学校に勤務し、庶務・経理等の学校事務に従事する。（熊本県では「教育事務」）
警察事務	県警本部、警察署に勤務し、深夜及び変則的な勤務を含む庶務・経理・企画・立案、公聴・広報、検査・指導等の業務に従事する。
警察官	各警察署に勤務し、犯人の検挙、犯罪の予防、少年の非行防止、交通の指導、交通違反の取締りなど、住民の生命と安全を守る仕事を行う。
消防士	各消防署に勤務し、個人の生命、身体、財産を火災から守るだけでなく、水害、地震などの天災地変の被害を軽減し、救助する仕事を行う。
業務職	主に、清掃、土木、下水道等の部門における現場作業、及び学校、病院、保育園等の施設における給食調理等の作業に従事する。

※身体障がい者を対象とする職員採用選考も実施されている。

『平成30年度版公務員試験ガイドブック』（壺溪塾公務員科編）より

〈試験内容〉 ※詳細は（1）国家公務員試験内容に準ずる

【熊本県（一般事務・教育・警察・専門）】

※警察官は二次試験で体力検査がある

試験	試験科目	解答題数 解答時間	内容
第1次試験	基礎能力試験 (多肢選択式)	50題 120分	公務員として必要な基礎的な能力(知識及び知能)についての筆記試験
	専門試験 (多肢選択式)	40題 120分	各試験の区分に応じて必要な専門的知識などについての筆記試験 (専門職のみ)
第2次試験	作文試験	1500字内 60分	文章による表現力、課題に対する理解力などについての筆記試験
	人物試験		人柄、対人的能力などについての個別面接、集団面接

Ⅲ. 2. 申込みから採用まで

(1) 申込み手続き

◎国家公務員について

国家公務員の受験申し込みは、特別な場合を除いてインターネットで行う。インターネットの検索エンジンで「採用情報ナビ」を検索し、採用情報（採用の有無・採用予定数など）を確認する。

a. 勤務地を決める

国家一般職の場合、採用試験の試験区分が地域別に分かれており、採用当初の勤務地は限定されているので、希望職種や勤務地の申込み後の変更は原則として認められない。申込みの前に、どの地区に勤務したいかを決めておく必要がある。九州地区は難関である。

b. 試験の区分を決める

一般職（高卒者試験）と税務職員試験は同じ日に1次試験を行うので、複数の試験を受験することはできない。二つとも申し込みをした場合、受験できなくなる場合がある。

c. 事前登録をする。

4月1日以降に、インターネットで人事院の「国家公務員採用試験申込」のサイトにアクセスし、事前登録を行う。パスワード・ユーザーIDは必ずメモを取り保管する。インターネット申込手続は①事前登録、②試験別の申込み、の2段階がある。事前登録だけでは申込完了にならない。

d. 申込

申込み受付期間になったら、人事院のサイトに再度アクセスし、受験する試験を選択し申し込む。申込完了後の変更は原則として認められない。完了画面で、印刷または画面の保存をしておくとうい。

e. 受験票の印刷

受験票の発行時期になったら案内メールが来るので、人事院のサイトにアクセスして受験票を印刷する。このときはスマートフォンでは印刷ができないので、パソコンでの操作が必要となる。

◎地方公務員について

申込み方法には郵送とインターネットがある。基本的には国家公務員の手続と同じで、同一試験では、複数の区分（一般事務と学校事務と警察事務など）に同時出願はできない。

郵送の申込用紙は受付の約2～3週間前に配布開始となる。希望地方の都道府県人事委員会や市役所人事課から募集要項を取り寄せ、応募方法を確認しよう。希望する地域に直接もらいに行くか、郵便で請求する。郵便の場合は、封筒の表に朱書きで、『高校申込み用紙請求』と書いて、返信用封筒（自分の住所・氏名を明記し、切手を貼っておく）を同封する。

出願の時に志望動機や自己PRを記入する願書の場合は、事前に充分下書きし、添削してもらうこと。

(2) 1次試験合格に向けて

まず、1次試験の教養試験と適性試験（技術系職種は専門試験あり）には、それぞれに基準点があることに注意する。一方が最高点でも片方が基準点以下だと不合格になってしまう。

次に、両試験の成績を総合して高得点順に並べ、採用予定人数や辞退数を考慮して1次合格者を決定する。基準点をクリアしても総合点で1点でも多く得点をとる必要がでてくるということである。作文試験の成績は最終合格者決定の時に参考として使われる。

(3) 2次試験合格に向けて

2次試験は個別面接や集団面接、集団討論などの形式がある。面接については「職種の志望動機」「部活動を通じて得たこと」「自己PR」など特に難しいことは聞かれないが、最近より一層人物面が重視されるようになっているので、1次合格で気を抜かずしっかり準備すること。

(4) 2次試験合格から採用まで

a. 採用候補者名簿への登録

2次試験に無事合格すると、いよいよ「採用候補者名簿」に名前が載ることになる。その後、採用面接の呼び出しを待つことになる。

b. 採用の決定

人事院地方事務局は、試験区分ごとに最終合格者名を成績順に「採用候補者名簿」（有効期間は1年）に記載。2次試験の時に受験者から出された採用志望カードをもとに、任用候補者一覧表を作成して各官庁に配布する。各官庁はこの候補者の中からふさわしいと思う人物を呼び出して面接する。この面接をパスすると、晴れて採用決定となる。

◎地方初級の場合も、都道府県や指定都市など人事委員会のある自治体は国家一般職とほぼ同じシステムとなる。

Ⅲ. 3. 自衛隊

【自衛官の仕事内容】

a. 一般曹候補生

一般曹候補生とは、部隊勤務を通じて、その基幹隊員となる陸・海・空曹自衛官を養成する制度である。入隊後は、まず教育課程で中堅の陸・海・空曹に必要な資質を養いながら、基礎知識や技能を修得し、その後部隊配属となり、各種技術の修得の訓練をする。採用後は約2年9ヶ月以降、選考によって3等陸・海・空曹に昇任し、全国の部隊に配属される。さらに3等陸・海・空曹に昇任後は、4年で幹部候補正の受験資格が得られ、これに合格すれば幹部に昇任できる。



b. 航空学生

航空学生は、航空自衛隊・海上自衛隊のパイロットを養成する制度で、戦闘機、哨戒機、輸送機、ヘリコプターなどのパイロットや戦術航空士に最年少で到達できるシステムである。まず2年間航空学生として、自衛官の基礎教育や操縦訓練に備えての専門教育を受け、その後飛行幹部候補生として操縦訓練や編隊飛行など様々な訓練を受ける。多くの計器を扱う技術力、スピードや重力に耐える体力、精神力が必要とされる。

c. 看護学生

防衛医科大学校の4年生の看護学科で、自衛隊の活動を医療面からサポートする看護師を養成する。

看護学科は、国家試験合格後、防衛医科大学校病院に勤務する保健師・看護師を養成する技官コースと、陸・海・空自衛隊の幹部候補生学校及び自衛隊病院等において所定の教育訓練や新人看護職員研修を受け、その後幹部自衛官として自衛隊病院、部隊などで勤務する保健師・看護師を養成する自衛官コースがある。

d. 自衛官候補生

採用後、「自衛官候補生」に任命され、所要の教育を3ヶ月受けた後、2等陸・海・空士に任官される。陸上は1年9ヶ月（技術系の一部は2年9ヶ月）、海上・航空は2年9ヶ月を1任期（2期目以降は2年）として勤務する「任期制隊員」で、教育訓練を受けた後に各部隊・基地などに配属される。約6ヶ月後に1等陸・海・空士に昇任し、さらに1年後陸・海・空士長に昇任する。

任期満了後は、部内の選抜試験や一般曹候補生採用試験を受けて自衛隊に残る道や、就職支援を受けて民間企業へ就職する道がある。

e. 防衛大学校学生

将来、各自衛隊の幹部自衛官となる者（パイロット要員含む）を4年間の修業期間において養成する制度で、卒業後は陸・海・空曹長に任命され、幹部候補生として陸上・海上・航空自衛隊の幹部候補生学校に入校する。幹部候補生学校では、初級幹部として必要な知識及び技術の修得のための教育を受け、約1年後に3等陸・海・空尉に昇任し、その後、自衛隊の職種・職域に応じた専門教育を受けながら幹部としての道を進む。募集資格は18歳以上21歳未満（自衛官であれば23歳未満）。

〈試験内容〉

	一次試験							二次試験			三次試験	
	国語	数学	英語	地歴公民	理科	作文	適性	面接	身体検査	適性	身体検査	適性
一般曹候補生	○	○	○			○	○	○	○		-	
航空学生	○	○	○	1科目選択			○	○	○	○	海上のみ	航空のみ
看護学生	○	○	○		1科目選択	○		○	○		-	
自衛官候補生	○	○		社会		○	○	○	○-		-	

※試験内容および詳細は、募集要項で必ず最終確認すること。

『平成30年度 公務員試験ハンドブック』（壺溪塾公務員科編）より

Ⅲ. 4. 公務員採用試験対策

(1) 採用試験のおおまかな内容

職種	教養 (基礎能力試験)	適性・専門	作文	二次試験
国家公務員 一般職事務 税務職	40問 90分 内訳 数的処理等 7問 課題処理 7問 社会系 11問 国語・英語系 11問 理科系 4問	120問 15分	600字 50分	個人面接
熊本県 一般事務 教育事務 警察官	50問 120分 内訳 数的処理等 7問 課題処理 9問 社会系 15問 国語系 13問 理科系 6問	適性検査なし	1500字以内 60分	個人面接 集団面接 体力検査(警察官)
市町村 初級職事務 学校事務 消防職	地域による ①Standard (スタンダード) 40問 120分 時事・社会・人文系 14問 自然系 6問 文章理解 6問 判断推理・数的推理・資料 解釈 14問 ②Lojical (ロジカル) 40問 120分 時事・社会・人文系 13問 文章理解 9問 判断推理・数的推理・資料 解釈 18問 ③Light (ライト) 60問 75分 判断推理(4)・数的推理(9)・ 資料解釈(5) 18問 国語(4)・現代文(7)・英語(7) 18問 政治経済・時事問題 24問	地域による 熊本市消防 体力検査有 (一次)	地域による 800字 60分	地域による 個人・集団 性格検査

※出題内訳は職種・年度によって異なるので、目安とすること。

- ・「基礎能力試験(教養試験)」・「適性試験」とも、1学年のうちから時間をかけて実力を養成しておくことが必要である。日頃から授業を大切に、こつこつと継続して取り組まなければならない。
- ・「基礎能力試験」では、数的処理(数的推理)・課題処理(判断推理)・資料解釈といった、独特な試験内容があるので、意識して校外の公務員講座や模擬試験を活用してほしい。
- ・「適性試験」は日々の訓練を必要とする。結果が出るまで根気強く練習を続ける必要がある。
- ・模擬試験は継続して何度も受け、実力の伸びを測ることも大事である。
- ・公務員試験の競争率は十倍、二十倍の競争倍率も少なくない。公務員としての資質・人柄には、民間とは違った高い倫理性や全体の奉仕者といった心構えが求められる。一朝一夕に就くことのできる職業ではないことを肝に銘じて、目標に向かってほしい。

(2) 基礎能力試験

分野		傾向と対策	
知識分野	社会科学	政治	日本国憲法や国会、内閣に関する問題が頻出事項である。時事的な話題や知識を問う問題も出題される傾向がある。参考書や教科書等で基礎をしっかりと固めること。
		経済	財政・金融政策が頻出問題である。教科書に書かれてあるような基礎事項をしっかりと学習した上で、日頃の時事問題を結びつけて視野を広げることが望ましい。
		社会(時事)	社会常識を問うような問題や時事性の強い問題が出題される傾向がある。国際経済や国際組織に関する問題を新聞などでとらえておくことが大切である。
	人文科学	世界史	西洋、東洋ともに近代史からの出題が多いが、中国歴代王朝、列強の進出などもおさえておこう。参考書などをつかって基本的事項を体系的に習得することが大切。
		日本史	江戸時代の三大改革は頻出問題。出題ジャンルは政治・経済・外交・人物と幅広い。教科書を利用して、それぞれの時代を自分でまとめてみると良い。
		地理	気候と農業に関する問題に加え、世界各国の地誌に関する問題も増えてきた。各国・地域ごとに気候・地形・歴史・時事問題などをまとめて学習しておくことが重要。
		文学・芸術	文学か芸術どちらか一題が出題されている。文学者名、芸術家名、代表作、時代背景、ジャンル、キーワードを整理しておくことよい。
		国語	ほとんどが漢字力を必要とする問題で、続いて文法が出題されるのが例年の傾向である。四字熟語、故事、ことわざなどは問題演習を積み重ねること。
	自然科学	数学	中心は数I。加えて代数幾何、基礎解析及び中学家庭の幾何の範囲において出てくる基本的な公式を覚えて、よく問題演習をしておくこと。
		物理	力学からの出題が中心であり、落下運動の公式やエネルギー保存の法則を利用して解く問題が頻出されている。公式を覚え、問題を繰り返し解いてみるのがよい。
		化学	物質の状態や化学反応に関する問題が頻出している。問題はそれほど難しくはなく、基礎的な知識があれば十分である。系統的に整理して学習するとよい。
		生物	地球環境問題と生物の関係、生態系に関連した分野からの出題が目立つ。範囲は広く、ただ丸暗記するよりも系統的な学習、理解が大切である。
		地学	地震と太陽系・惑星の運動に関する問題が頻出している。一通り教科書や手頃な参考書を通読し、一般的原理や法則、用語に注意しながらノート作りをするとよい。
	知能分野	文書理解	現代文と英文、古文からの出題がある。英文は基本的な文法や構文の習熟、文脈を把握する力が必要。現代文の対策としては普段から多方面の文章に接しておくこと。
		課題処理	人や物体の位置を推理する問題、見取り図、展開図、断面図などを解釈する能力を問う問題が頻出している。解き方に一定のパターンがあるので、パターンごとに整理しておくことよい。
数的処理		速さ、確率、図形の問題は出題頻度が高い。公式、解法を理解して基本的なタイプの問題をしっかりとマスターし、数多くの応用問題に取り組むことよい。	
資料解釈		グラフもしくは表を正しく読み取る問題。資料の意味を読み取り、確実にいえることを導き出す能力が必要である。問題演習を重ね、実力の向上を図ること。	

(3) 適性試験**a. 試験の目的**

適性試験は「主に事務系職種の一次試験で課せられる事務処理能力を見る試験」で、文章の記入、清書、転記、照合やデータの集計、分類、整理などの作業をすばやく正確にこなす能力をみるために行われる。一次試験で教養試験とともに実施されることが多い。

b. 形式

5肢択一式でマークシートを使用する。15分で120題の問題を解く。問題の形式は、計算、置換、分類、照合、図形把握の5形式があり、その中から3形式がそれぞれ10題ずつ交互に出題され、40題ずつ出題されるパターンが多い。ある形式の問題だけ先に解くことや、得意なものから解くということは許されないので、形式が変わる度に頭を切り替えながら解答していくことが必要である。

c. 採点方法と注意点

採点は減点法がとられており、正答数－誤答数＝得点となる。

誤答数には解答をとばしたものや答えを2つ以上マークしたものも含まれるので注意すること。

合格するために必要な基準点は約6割と言われるが、平均点などによっても変わることがある。

d. 試験対策

適性試験の対策は練習あるのみ。毎日練習していくうちに解答スピードもアップし、正答率も上がっていく。まず最初は各問題形式の内容を把握し、解答方法の基本をマスターしたい。最初はスピードよりも正確さに重点を置いた方が良いので、制限時間は気にしないで最後まで全問解いてみよう。慣れてきたら時間を正確に計って、時間内に全問解き終えることを目標にしよう。さらに不得意な形式については練習量を増やして克服を目指そう。

(4) 作文試験**a. 作文試験の採点基準**

作文試験の時間は45～90分、字数が600～1500字と様々だが、目安は60分1000字。評価はおおむね以下の3点からなされる。

① 形式的な面

丁寧に読みやすい文字か／誤字脱字や送り仮名の誤りはないか／原稿用紙の使い方は正しいか

② 内容的な面

筋道のたった文章か／テーマを理解し、その内容に沿って書かれているか

③ 総合的な面

意見や考えが高校卒業程度のレベルにあるか／どのような人柄、性格か

b. よく出されるテーマと出題例

テーマ	出題例
自分自身のこと	「私はこんな人になりたい」「日頃心掛けていること」 「私の将来」
学校生活のこと	「学校生活で学んだこと」「私の学校生活」
職業のこと	「私の職業観」「志望動機と将来の希望」「職業と学校」
社会や我が国の現在のこと	「豊かな社会」「世界の中の日本」
趣味・恩師・友人のこと	「私の出会った一冊の本」「私の先生」
感想・随筆文	「私の好きな言葉」「自由と責任」「最近気になること」

c. 留意点

作文はすぐには上達しないので、常日頃から文章に親しんでおくことが大切である。随筆や小説、新聞の社説やコラム欄など日頃から読む習慣を身につけよう。

(5) 面接試験

c. 面接の形式

大きく個人面接と集団面接に分けられる。個人面接は、通常受験者が一人で時間は10～20分、集団面接は受験者が5～8人で行われる。面接官は2～3人が普通。

Ⅲ種試験では個人面接が中心である。質問内容は大きく変わらないが、集団面接では他の人が答えているときの態度や他の人の意見について自分自身はどう考えるかを問われることもある。

d. 採点基準

服装や態度等外見から	<ul style="list-style-type: none"> ・第一印象はどうか ・頭髪や服装に乱れはないか ・入退室の時、礼儀正しい挨拶ができるか ・動作に落ち着きがあるか
話し方と話の内容から	<ul style="list-style-type: none"> ・話し方が明瞭か ・言葉遣いは正しいか ・自分の意見や考え方を正しく表現できているか ・人の言うことを正確に理解できているか ・責任感があるか ・仕事に対する熱意が感じられるか ・積極性があるか ・周りの人と協力して物事を進めていけるか ・充実した学生生活を過したか

e. よく出る質問

- ① 自己紹介と自己PRや長所、短所など
- ② 公務員の志望動機と今後の抱負
- ③ 学校生活の思い出
- ④ 友人について
- ⑤ 一般的な社会情勢や国際情勢
- ⑥ (地方公務員志望者) その地域に関する事柄

Ⅲ. 5. 最後に…現役合格を目指して

「目標を絞る」

自分がどの職務に向いているか考え、適性にあった職種を選ぼう。目標を絞ったら過去問題を解き、傾向をつかもう。

「幅広い範囲に対応する」

公務員の出題範囲はとにかく広いので、特定の科目に偏らず、幅広く勉強しよう。

「問題集1冊を徹底的に解く」

特別な参考書は必要ないので、教科書と過去の試験問題を繰り返し解こう。回を重ねるごとに1問を解くスピードをだんだん速くしていく。「パッと見てパッと解ける」ようになるのが理想。

「模擬試験を活用する」

日頃から公務員の模擬試験を受験し、実際の試験の雰囲気をつかむとともに、速いペースで時間内に確実に答えを出す練習をしよう。マークシートの記入も慣れておく必要がある。

令和元年度（2019年度） 国家公務員試験日程

試験名	区分	申込み受付期間	1次試験	1次合格発表	2次試験	最終合格発表
衆議院 (旧 事務局 職員Ⅲ種)	一般	郵送又は持参 7/16～7/23	9/7(土)	9/13	9/24～27の指定日	10/月中旬
	衛視				9/27～10/2の指定日	
参議院 (旧 事務局 職員Ⅲ種)	一般	郵送又は持参 6/29～7/19	8/27(土)	9/9	9月下旬以降の指定日	10/31以降
	衛視				9月下旬以降の指定日	
国家一般 (旧国家Ⅲ種)	事務 技術 など	インターネット 6/17～6/26	9/1(日)	10/3	10/9～10/18	11/12
税務職 (旧国家Ⅲ種税務)		郵送 6/17～6/19				
裁判所一般 (旧 裁判所Ⅲ種)		インターネット 7/9～7/18 郵送 7/9～7/12	9/8(日)	10/3	10/11～10/24	11/8
刑務官		インターネット 7/16～7/25 郵送 7/16～7/18	9/15(日)	10/9	10/17～10/23	11/19 航空課程の 3次発表 1/16
入国警備官		インターネット 7/16～7/25 郵送7/16～7/18	9/22(日)		10/23～10/25	
海上保安官					10/15～10/24 航空のみ3次試験あり 3次試験 11/30～12/10	
皇宮護衛官					11/20～11/26	
航空保安大学校学生		インターネット 7/16～7/25	9/22(日)	10/9	11/11～11/14	12/17
海上保安学校学生		インターネット 7/16～7/25 郵送・持参 7/16～7/18	9/22(日)	1次 10/9	2次 10/15～10/24 航空のみ3次試験あり 3次試 11/30～12/10	11/19 航空課程の 3次発表1/16
海上保安大学校学生		インターネット 8/22～9/2	10/26(土)	12/6	12/13	1/16
気象大学校学生		郵送・持参 8/22～8/26	10/27(日)			

※後日受験案内で必ず確認すること。

※受付期間、試験日程などの情報は、願書・募集要項などで必ず最終確認すること。

※インターネット受付期間に関しては、時間制限が設けられている試験もあるので、注意すること。

※国家公務員採用試験の情報は、人事院ホームページでも確認できる。

※自衛官候補生（男性）は、年間を通じて試験を実施している。詳細は自衛官ホームページで確認できる。

令和元年度（2019年度） 熊本県職員採用試験等計画

試験の名称	募集職種	申込み 受付期間	1次試験	1次 合格発表	2次試験	2次 合格発表
熊本県職員 (高卒程度)	一般事務	インターネット 8/9～8/30 郵送 8/9～8/30	9/29(日) 教養試験 (全職種) 適性試験 (事務系) 専門試験 (技術系)	10月上旬	10/26 作文試験 11/2～4 面接試験	11月中旬
	警察事務					
	教育事務					
	一般土木					
	農業土木					
警察官B	男性 女性	インターネット 8/9～8/30 郵送 8/9～8/30	10/20(日) 教養試験 作文試験	10月下旬	11/9・11/10 体力試験 11/23～11/27 面接試験	12月上旬

※採用予定人数は4月中旬頃発表予定・願書は6月中旬以降配布開始予定

※受付期間、試験日程などの情報は、願書・募集要項などで必ず最終確認すること。

※インターネット受付期間に関しては、時間制限が設けられている試験もあるので、注意すること。

※熊本県のホームページ「試験案内・受験申込書」より、ダウンロード、受験申し込みができる。

令和元年度（2019年度） 熊本市職員採用試験日程

試験区分	募集職種	採用人数	申込み 受付期間	1次試験	1次 合格発表	2次試験	最終 合格発表
初級職	事務職	32人程度	インターネット 7/18～7/31	9/29(日)	10/25	11/2 作文試験 適性検査 11/12～15 のうち指定 する日時 面接試験	11/29
	学校事務職	5人程度					
消防職	初級消防職	9人程度	郵送 7/18～7/30				

※受付期間、試験日程などの情報は、願書・募集要項などで必ず最終確認すること。

※インターネット受付期間に関しては、時間制限が設けられている試験もあるので、注意すること。